

そして・・・

この運動を通して、

「みなさんの最も身近な医療職」＝薬局薬剤師  
をもっと知って頂き、活用して頂きたい！！

そして、その中で・・・

数字に裏打ちされた結果をもって  
私たち薬剤師に出来ることを  
客観的に社会に示したい



Fukuoka City Pharmaceutical Association

## 2. 残薬調整（節薬バッグ）運動

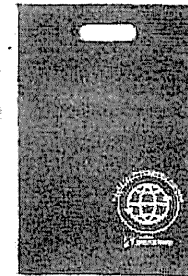
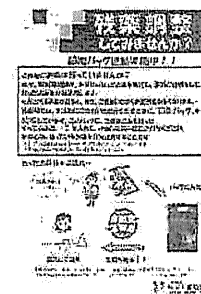
薬局



残っている薬を、バッグに入れて薬局にお持ち下さい。  
薬剤師が安全で正しい再活用のお手伝いをします。飲み間違いなどの危険も防ぎます。

①節薬バッグ運動説明

節薬バッグ提供



患者さん



Fukuoka City Pharmaceutical Association

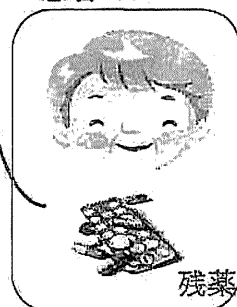
## 2. 残薬調整（節薬バッグ）運動

薬局



- ・残った薬を調査
- ・残った薬を説明
- ・医師に残った薬の再活用を確認
- ・処方箋に活用状況を記入

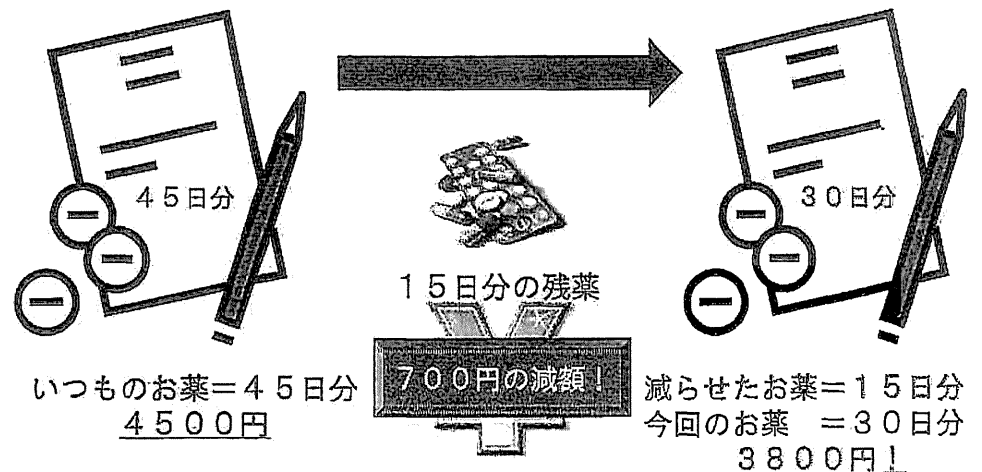
患者さん



来局（処方箋・残薬）

調整後、お薬のお渡し

Fukuoka City Pharmaceutical Association



残ったお薬が使えるうちに  
安全に正しく有効活用！

Fukuoka City Pharmaceutical Association

### 3. 平成24年度トライアル結果紹介

2012年 平成 24年6月下旬～同年8月末  
福岡市内31薬局から252名のデータを回収・解析

- ・ 削減薬剤費：702,695円
- ・ 残薬のうち83.6%を削減!

1枚当たり削減額：2,788円

年間削減可能額（全国）：約3,000億円

薬学雑誌(2013.11)  
節薬バッグ運動  
外来患者の残薬の現状とその有効活用による医療費削減の取組み(一般論文)

### 4. 全市展開・第1期までの結果紹介

	2013	2012トライアル
参加薬局（店舗）	99	31
患者（人）	622	252
男/女（人）	295/326	111/141
平均年齢（歳）	68.6 (0.25～99)	69.2 (21～98)
保険負担割合 0割/1割/3割（人）	77/245/298	38/113/101
平均処方薬剤数	5.9	6.5
在宅訪問（人）	5	不明
平均処方日数（日）	29.1	

Fukuoka City Pharmaceutical Association

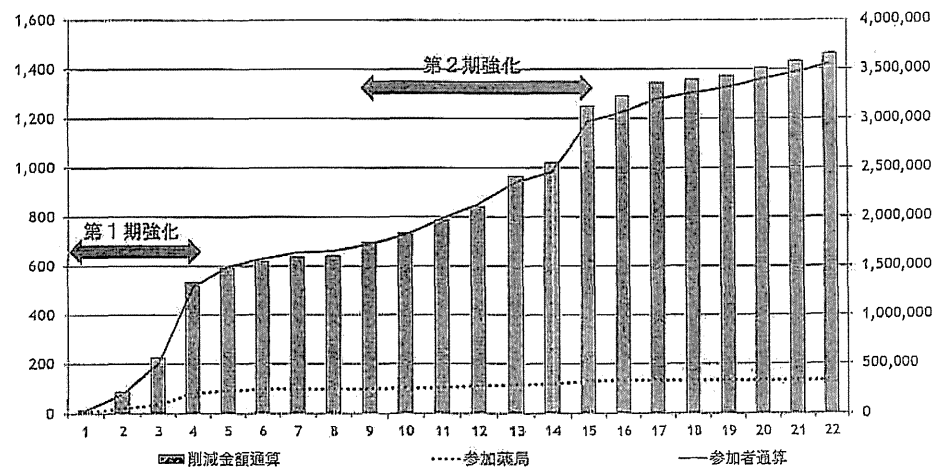
### 4. 全市展開・第1期までの結果紹介

	2013	処方せん (1枚当たり)	2012 トライアル
全処方薬剤費（円）	7,370,542	12,366	
残薬薬剤費（円）			839,655
削減薬剤費（円）	1,444,589	2,423	702,695
薬剤費削減率	19.6%		

処方せん1枚当たり薬剤費約20%が有効活用できた

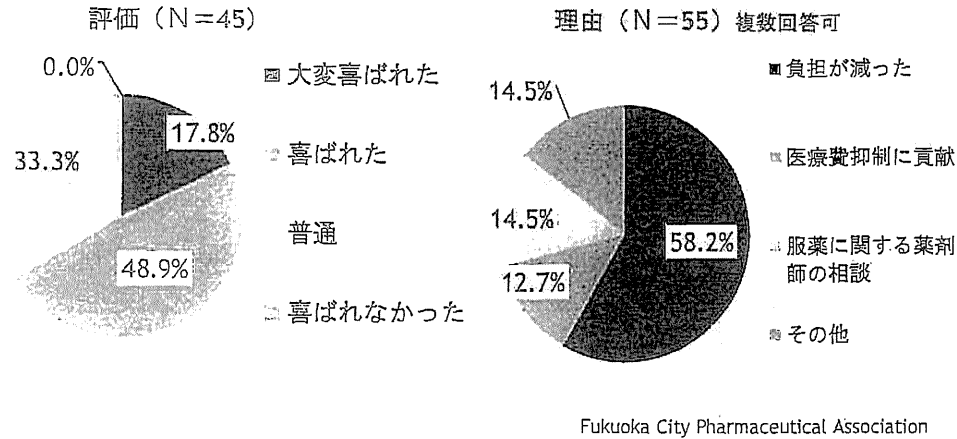
Fukuoka City Pharmaceutical Association

### 4. 全市展開・現在までの結果紹介



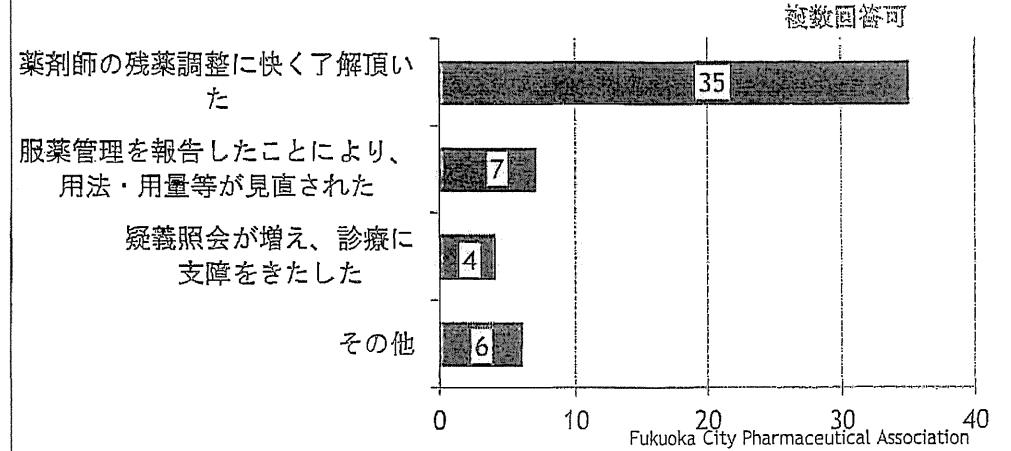
Fukuoka City Pharmaceutical Association

## 5. アンケート内容紹介：患者の評価



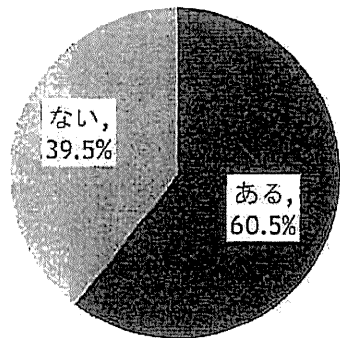
## 5. アンケート内容紹介：処方医の反応

### 処方調整に関する疑義照会に対する処方医の反応 (n=52)



## 5. アンケート内容紹介：薬剤師の意識

### 服薬指導に変化は? (n=42)



### 記述回答

- 自己調整薬、患者毎に飲み忘れやすい服用時点などの把握ができ、具体的な管理指導がしやすくなった
- 患者の理想の服薬タイミングを再考し、医師に疑義照会して、食前→食後・1日3回→2回等に変更した。
- アドヒアランス及び患者との意志疎通の向上、他

Fukuoka City Pharmaceutical Association

## 6. 広報活動

西日本新聞

フリーペーパー (福岡市内65万戸) 福岡市内一般世帯の約9割をカバー

健康サポ

会員薬局名

余った薬:「薬のハコ」に入っておく。

健康サポは、余った薬を回収し、適切に処分することで、誤食や誤飲による健康被害を未然に防ぎ、環境にも優しい取り組みです。回収した薬は、適切に処分され、再利用は行いません。

回収期間: 毎月1回、毎月15日(日)の午前9時から午後5時まで。回収場所は、市内各薬剤師会館。回収料は無料です。

お問い合わせ: 092-282-1111

Fukuoka City Pharmaceutical Association

## 6. 他地区への広がり (小倉地区)

患者情報		薬剤費情報		総額 (中央値)
参加薬局 (店舗)	28	全処方薬剤費 (円)	2,013,380	(10,812)
患者 (人)	148	削減薬剤費 (円)	413,910	(1,578)
男/女 (人)	78/68	削減調剤料 (円)	41,630	(100)
平均年齢 (歳)	72.9 (0~93)	削減率 (%)	23.9	(17.8)
保険負担割合 0割/1割/3割 (人)	19/91/38	福岡市との違い		
平均処方薬剤 (剤)	7.9	①平均年齢が高い		
訪問あり (人)	5	②男女別・保険負担割合別の人数		

小倉地区以外でも、いくつかの地区薬剤師会からお問い合わせ頂き、運動は徐々に広がりを見せています。

Fukuoka City Pharmaceutical Association

## 6. 社会の反応



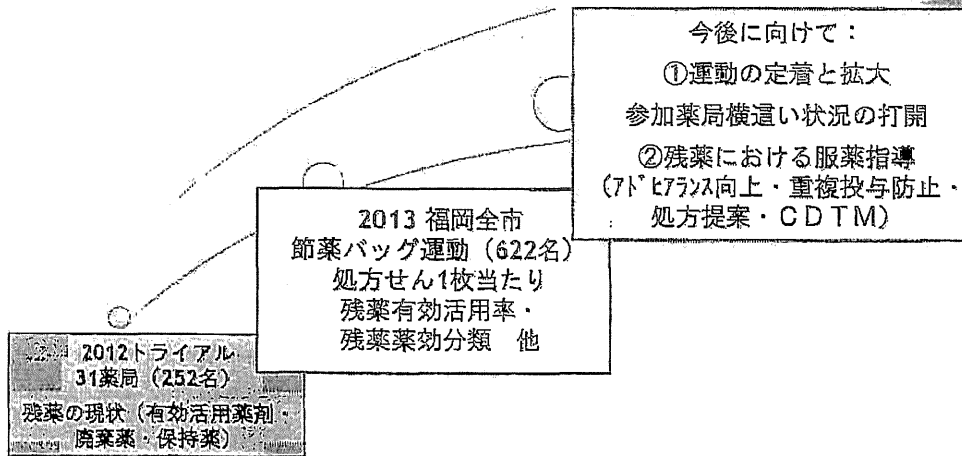
日経D | 2013/1

薬事日報 2012/11



Fukuoka City Pharmaceutical Association

## 7. 今後の展望・課題



Fukuoka City Pharmaceutical Association



ご不明の点は福岡市薬剤師会まで

一般社団法人 福岡市薬剤師会  
九州大学大学院 薬学研究院 臨床育薬学分野

Fukuoka City Pharmaceutical Association

# 残薬調整 してみませんか？

## 節薬バッグ運動実施中！！

ご自宅に**お薬は残っていませんか？**

我々、薬局薬剤師は、あなたの残ったお薬を確認し、医師に連絡をして、残ったお薬を有効活用します。

処方されるお薬が減ると、当然、ご負担いただくお薬代も少なくなります。(\*1)

当薬局では、本活動にご協力いただける患者さまに、「**節薬バッグ**」を

**配布**しています。このバッグに、ご家庭にある残ったすべてのお薬(\*2)を入れて、次回の来局の際にお持ちください。

節薬とは、余っているお薬を有効活用することです。

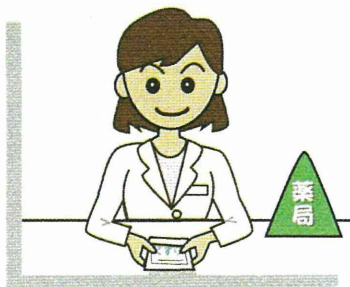
(\*1)どの程度節約出来るかは、残ったお薬の状況によって異なります。

(\*2)他の病院や薬局で頂いているお薬もご持参ください。

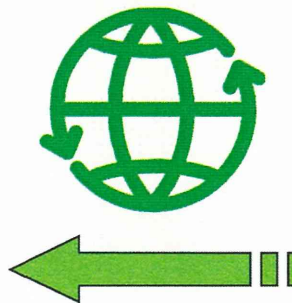
### 余ったお薬持参の流れ・・



バッグに入れて



薬局にて調整



薬局へ持参！！



お薬代の節約に関する研究の為に、皆様の持参薬の結果は、個人を特定できない形で九州大学薬学部臨床育薬学分野に送付させていただきます。ご協力の程お願い致します。

一般社団法人 **糸島薬剤師会** 一般社団法人 **筑紫薬剤師会**

一般社団法人 **粕屋薬剤師会** 一般社団法人 **宗像薬剤師会**

一般社団法人 **福岡市薬剤師会**

## 鹿児島県薬剤師会の残薬に関する取り組みに関する調査の概要

### 1. 調査日及び場所

平成28年2月16日、鹿児島県薬剤師会会議室

### 2. 残薬に関する取り組みの概要について

#### (1) おくすり整理そだんバッグ事業について

##### ①事業実施のきっかけについて

おくすり整理そだんバッグ事業を実施しようとしたきっかけは、平成23年度の地域支え合い体制づくり事業の中で、多職種との意見交換会を実施した結果、残薬に関する相談が多かったところから始まった。また、薬剤師職能についての認識不足も見られたことから、他職種への薬剤師職能のPRや多職種連携促進に向けて、おくすり整理そだんバッグ事業を開始し、そだんバッグを作成した。医療費削減効果を目に見える形で算出することも目的の一つではあったが、重要なポイントは、飲み残した薬の状況を確認し、体調や効果、副作用をアセスメントすることで問題点を把握し、薬学点観点から患者の状態改善に努めることを主眼とし、そのことで、薬剤師職能の発揮及び他職種との連携強化を実施することを目指した。そのため、袋の名称に「そだん」の文字をいれるところには当初からこだわり、単純に残薬を集めるだけではなく、残薬となったことの原因やそのほか薬に関する『そだん』をしっかりうけるよう取り組みはじめた。

##### ②残薬データベースについて

患者がもってきた残薬を整理して、その残薬に関する情報も整理するとともに、残薬額についても算出し、データ作成をしようとする、労力と時間が非常的に増える。実際に、データを1か月分集めていた調査も、その負担減と参加薬局を多くするため、1週間に変更して対応したことも事実である。

鹿児島県薬剤師会では、残薬情報収集の平仄を保ちつつも、残薬のデータ収集の負担増等の課題も踏まえ、残薬情報の作成計算を行うソフトを開発した。さらにその機能には、医師に次回処方する場合に残薬は何がどのくらいあり、処方希望日数をどれだけ減らすことができるかの見える化も行い、医師との連携を円滑にしている。このソフトについては鹿児島県薬剤師会ホームページから無料で提供している。

しかしながら、このソフトの医薬品の薬価や数は薬価改定や新薬上市で更新していく必要があり、そのようなメンテナンス作業や維持管理等についてどのように捻出していくかが大きな課題となっている。

### ③おくすり整理そうだんバッグ事業の概要

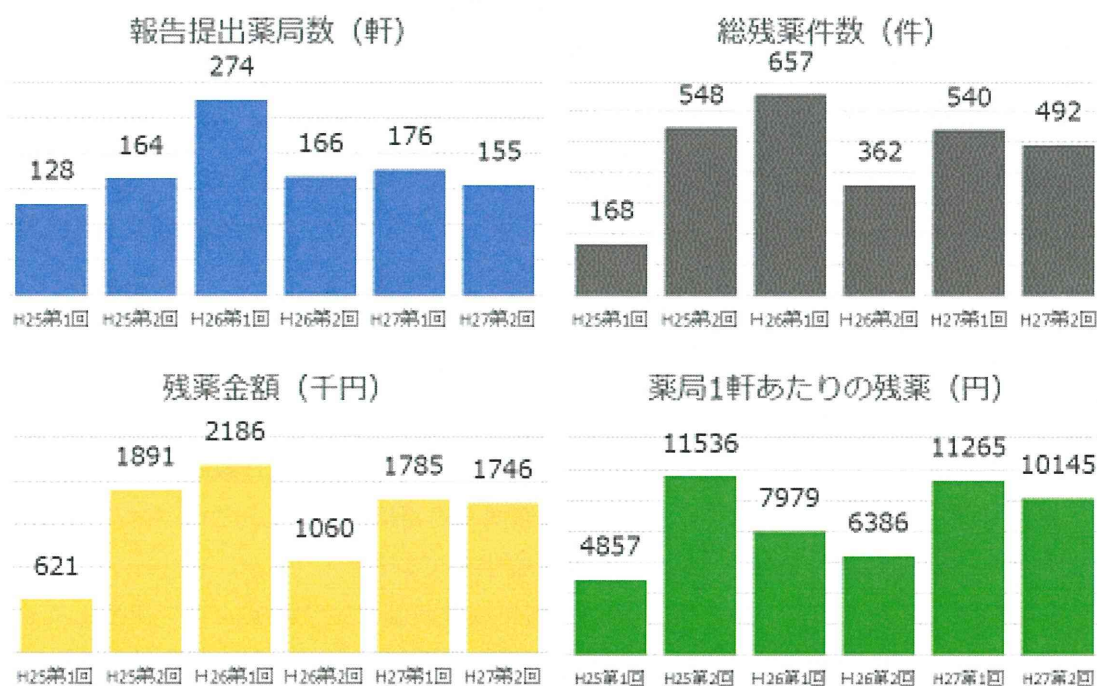
おくすり整理そうだんバッグ事業は、バックを患者に渡す、患者から薬を預かり、薬局は患者に預かり証を出す。預かった薬は整理し、患者への返却の際やその後に薬に関する相談に応じるとともに、その情報については、処方医へのフィードバックに努めることとしている。

平成24年度に鹿児島県4地区でモデル事業を実施し、平成25年度に県下会員薬局を対象に、第1回(4月、1か月調査)、第2回(10月、1週間調査)、平成26年度は、第1回(8～9月、1週間調査)、第2回(10～11月、1週間調査)、平成27年度は第1回(5～6月、1週間調査)、第2回(7～8月、1週間調査)に実施した。

残薬額については、スライド1のとおりである。この表では、きれいに右肩下がりとはなっていないが、残薬への取組みを継続的に実施することで、薬局1軒あたりの残薬額は減少傾向にあるように感じられた。また、患者アンケート調査にもあるとおり、必要以上にあまっている薬は全くないまたはあるが前より少ないが、91%となっている。つまり、残薬に関する取組みを実施することによる医療費削減効果は徐々に減少傾向にある印象だが、一方、患者の治療への意識や服用効果に変化は着実に出てきている点が重要である。

スライド1

## 残薬整理事業の推移



#### ④残薬整理調整に対する患者様への意識調査

残薬に関する調査の浸透を踏まえ、40歳以上で、3剤以上を服用している患者を対象にして、アンケート調査を実施した。

毎年度残薬を実施している鹿児島県薬剤師会ではあったが、残薬の経験があった方は33%であった。

残薬調整後の変化として、薬剤師に相談しやすくなった、無駄を意識するようになったとの感想も多いことや、残薬整理経験者は薬に関する不安・心配が解消される傾向にあり、今後のかかりつけ薬剤師・薬局の取組みにおいても重要な業務であると考えられる。

#### (2) 今後のおくすり整理そうだんバッグの活用について

おくすり整理相談バッグは、家庭内にあっても水色で比較目立つ袋であることから、緊急入院等の場合に持ち出しバッグとして利用が可能な他、病院との連携を円滑にするよう、病院の持参薬チェックをかかりつけ薬局で実施してから入院するような連携を取り組んでいる。

また、今後の在宅医療の普及進展に伴い、高度な薬物療法を実施する患者も増えていく傾向にある。そうした中、在宅医療を見据えた薬薬連携が重要になると考える。まず、「入院時の持参薬の問題として、患者の入院が決まった場合に、持参薬をもって来るよう指示すると、現在服用しているいないにかかわらず、家にある全ての医薬品を持参するケースもめずらしくなく、そのため、病院薬剤師はそのチェックにかなりの時間を要するケースも多い。

そのような課題対応として、持参予定の薬を入院前に、かかりつけ薬局でチェックしたのち、入院するようにするといった病院薬剤師と薬局薬剤師との薬薬連携を実施している。病院薬剤師と薬局薬剤師が入院時退院時の薬物療法をしっかりとつなぐことで、自宅から入院、入院から在宅へのシームレスな医療連携の一端になると考えている。ただ、病院薬剤師の明らかな負担減につながる一方、病院からバッグをもらった患者が薬局にもっていく手間がこの薬薬連携の事業のネックとなっている。

なお、退院後もバッグを通じて、入院中の医薬品に関する情報等を提供してもらうようにしている。

#### (3) その他

認知症の患者等に対しては、繰り返し残薬調整を実施しても、特に独居や老々介護のケースでは、改善しないケースもあるので、その場合の対応は別途が必要である。

また、残薬に直接関係はないものの、肝付地区（大隅半島）では、高齢化率が高く、限界集落に近い状況となっている。そのため、在宅による薬剤師のかかわりのみならず、地域での医療従事者や介護関係者の負担軽減に関する取り組みを薬剤師も率先して実施していくことも重要（いや必須）となってきている。



鹿児島県薬剤師会  
おくすり整理そうだんバッグ事業の4年  
～在宅医療を見据えた薬薬連携を目指して～

鹿児島県薬剤師会常務理事  
福元薬局  
沼田真由美

クスリの飲み残しの山



残薬  
約500億円



## おくすり整理そうだんバッグ事業

○平成23年度

地域支え合い体制づくり事業  
多職種との意見交換会開催  
県内10地区  
計15か所



そのなかで見えてきたこと……

## おくすり整理そうだんバッグ事業

・多職種の薬剤師職能に対する認識不足

⇒何ができるのか認識されていない

・在宅医療における薬剤師への期待

⇒主治医ともつながりやすくなるのでは

・在宅における残薬の相談

⇒今まで接点がなかったので相談できなかった  
意見交換会終了後、他職種より具体的な相談を受けることも

## おくすり整理そうだんバッグ事業

\* 残薬確認や回収のツールとしてだけでなく

他職種に向けての薬剤師職能のPRや  
多職種連携の足がかりとして利用

